

「総合的な学習の時間」の評価

「総合的な学習の時間」講座より

総合的な学習の時間においては、取り組む課題についての知識や技能を身に付けることを目的としているのではないために、従来の教科のようにテストで数値的に評価することは適当ではない。しかし、評価がいらぬわけではない。

まず、自分なりのめあてを立て、主体的に取り組んだ学習の成果に対するフィードバックは重要である。総合的な学習の場合には、自らの興味・関心の高い個別課題に対して、体験を通して取り組んでいるだけに、満足感や成就感をもちやすい。それが他者からの評価によって更に高められ、自信やよさの発見・伸長に結びつきやすい。

次に、子ども自らが問題を見付け、課題を設定し、主体的にその問題に取り組んでいく過程で問題解決力が育つ。設定課題や学習計画、追究過程を評価・改善していく力は問題解決力と両輪である。また、子ども同士が互いの活動やその成果に対して助言や評価を与え、互いに軌道修正を図ったり、認め合ったりしていくことが重要である。

最後に、「自己の生き方を考えること」についての評価である。どのような課題に取り組んだとしても、子ども自身が具体的な活動を通して体験したこと、感じたこと、学んだことを振り返り、その課題について今後どうかかわっていくべきかを考えることが重要となる。活動全体を振り返り、そのことを通して生き方を探るための評価が重要である。

総合的な学習においても、細かい観点・規準を設定し、過度に子どもの活動をチェックする風潮が生まれつつあるが、「評価のための評価」であってはならない。子ども自身の学習改善のための評価、「生きる力」の伸長につながる評価、「自己の生き方を考えること」につながる評価、教師の指導改善やカリキュラム改善につながる評価であるべきである。